

開発教育促進を支援、 JICA ベトナム事務所の取り組み



教師海外研修 集合写真



JICA には、さまざまな事業があり、その中の一つに、市民の国際理解教育・開発教育を支援する「開発教育支援事業」*があります。開発課題を主体的に考える力や根本的解決に向けた取り組みに参加する力を養うことを目的に、JICA が事業を通して得た国際協力に関する情報、経験、人材等を教育の場に提供することや、考える機会をすることで、開発教育の推進に取り組んでいます。この「開発教育支援事業」の活動として、JICA では、学校の授業へ講師派遣、エッセイコンテストの開催、関連分野に関心のある方を対象とした研修等を行っており、その中でも在外事務所で

は、ODA や国際協力に関心の高い学生や省庁、地方自治体、大学・研究所等に JICA 事業の概要説明を行っているほか、事業現場の視察、専門家との意見交換や JICA 海外協力隊の活動現場訪問を受け入れています。ベトナムに対する JICA の支援分野は多岐にわたり、有償資金協力、無償資金協力、技術協力等の支援メニューをまんべんなく実施していることが一つの特徴として挙げられます。そのため、各国の JICA 在外事務所の中でも、ベトナム事務所は視察ツアーの年間実施件数の最も多い事務所の一つです。近年では、JICA の取り組みに関心

【巻頭】

- ・ 開発教育促進を支援、JICA ベトナム事務所の取り組み

【成長と競争力強化】

- ・ 日越大学第二期卒業式を開催
- ・ 人材育成奨学計画 (JDS) プロジェクト
日本に留学する行政官等 63 名の壮行会開催
- ・ 適切な経済分析・予測に基づく金融政策運営能力の向上を支援
- ・ ベトナムの持続的発展政策に関する政策研究機関との包括連携

目次

【脆弱性への課題】

- | | | |
|---|-----------------------------------|---|
| 1 | ・ 国際看護師協会大会でプロジェクトの活動成果を発表 | 4 |
| | ・ ランソン省での「世界反人身取引デー」キャンペーンイベントに参加 | 5 |

2

【その他】

- | | | |
|---|-----------------------------|---|
| 3 | ・ JICA 海外協力隊、帰国ならびに中間報告会の開催 | 6 |
| 3 | ・ JICA 海外協力隊が指導した選手が大活躍 | 6 |
| | ・ メコンデルタの雄、カントー市！ | 7 |
| 4 | ・ カントー橋慰霊碑への献花 | 7 |
| | ・ 世界の野球グローブ支援プロジェクト IN ベトナム | 7 |
| | ・ Voice of Expert | 8 |
| | 環境モニタリングデータの整備・充実を望む | |

を寄せる訪問団体も多様化しており、これまでは高校生や大学生で構成された訪問団が多くを占めていましたが、最近では、域内企業の海外展開を視野に入れた地方自治体や関連団体の視察ツアーが増加傾向にあります。



プロジェクト視察

ベトナム事務所では、JICA が中心となって実施する視察プログラムも積極的に受け入れています。昨年度は、「教師海外研修」プログラムで、学年や専門教科の異なる 10 名の教員の皆さんを受け入れ、JICA の事業現場を訪問し、第一線で活動する JICA 専門家、JICA 海外協力隊や、現地住民の方々との意見交換等を実施しました。研修を通じて、教員の皆さんは開発途上国の置かれている現状への理解を深め、研修で得た知識や経験をそれぞれの学校現場に持ち帰り、校内の研修成果の発表や授業等に活かしています。参加された教員の皆さんに

は、地域における開発教育のキーパーソンとして活動していただくことで、生徒や他の教員の皆さんの理解促進に繋がることが期待されます。さらに、ベトナム現地の日本人学校へは、これまでに JICA 関係者による出前講座、学校の授業や教材づくりのための情報提供、修学旅行での JICA 海外協力隊による講演、前述した教師海外研修の参加教職員との意見交換会等を実施し、生徒への開発教育に繋がられるような機会を提供してきました。2018 年度には、JICA が主催する国際協力をテーマにした中高生対象のエッセイコンテストにおいて、ハノイ日本人学校より多数作品をご応募いただき、中学部 1 年生が佳作に入賞した他、ハノイ日本人学校の「学校賞」の受賞にも繋がりました。

こうした訪問団の受け入れに関わった JICA 所員、JICA 海外協力隊や専門家にとっても、市民の皆さんからの貴重な意見や励ましが、日々の業務の活力に繋がっています。また、日本の各地域にある JICA 国内センターにおいては、このような機会を通じて、地域の学校を始め自治体や NGO 団体等との連携強化を図っています。今後も JICA による国際協力を広く知ってもらい、一人でも多くの方に関心を持ってもらうためにも、ベトナム事務所の重要な業務の一つとして取り組んでいきます。

*開発教育支援事業

https://www.jica.go.jp/partner/dev_education/index.html

成長と競争力強化

日越大学第二期生卒業式を開催



日越大学第二期生とご来賓との集合写真

7月20日、ベトナム国家大学ハノイ校内にて、日越大学(VJU)第二期生(17年9月入学の72名)学位記授与式を開催しました。

VJU では現在修士課程のみが開設されていますが、大学院であってもリベラルアーツを主軸にしているのが特徴です。卒業生総代の方も「環境工学専攻ながら、リベラルアーツ、特に哲学の授業が勉強になった」とスピーチで述べていました。また、ご来賓の武部勤日越友好議連特別顧問は、タクシー運転手の事例を用いて「目測力」という言葉を贈られました。「タクシー運転手は、給料が

新人とベテランで倍以上、首位と下位層では10倍異なり、首位の運転手は、時には道路状況から迂回路を使っても早く辿り着く道のりを勧めることができる。これからの人材の差は、まさにこういう部分に出てくるのではないだろうか。例えば、この大学から(滞在先の)メリアホテルまでどのくらいの距離があるか、朝昼夕なら何分で行けるか、目・頭・心で正確に測れるか——これはある意味リベラルアーツである」というお話でした。

これからの時代に求められる専門性は、特定の分野をひたすら極める職人型よりも、様々な分野に精通し、それらの掛け算でイノベーションを生み出していくジェネラリスト型であるとよくいわれますが、その人材育成の基礎としてリベラルアーツは欠かせません。最後に VJU 古田学長による祝辞の一節を引用して、本記事を締めさせて頂きます。

「2年前の入学式では、特定の鋳型にはめ込まず、学生の個性を開花させることに主眼を置く」と述べましたが、今回、卒業生72人がそれぞれの花を咲かせ、日越大の花壇を彩らせてくれたことに感謝したいと思います」

人材育成奨学計画（JDS）プロジェクト 日本に留学する行政官等 63 名の壮行会開催



写真前列中央から、梅田大使、左にマイ・バン・チン副委員長、レ・ハイ・アン副大臣、右に JICA ベトナム事務所小中所長

7月24日に、ハノイ市内で人材育成奨学計画（JDS）プログラムを通じて今秋入学する留学生 63 名（修士課程 60 名、博士課程 3 名）の壮行会が開催されました。

壮行会では、JICA ベトナム事務所小中所長をはじめ、教育訓練省レ・ハイ・アン副大臣、ベトナム共産党中央組織委員会マイ・バン・チン副委員長、在越日本国大使館梅田大使、日本学生支援機構（JASSO）、国際交流基金等が出席しました。

JDS は、開発途上国の優秀な若手行政官等に日本の大学院への留学機会を与え、その国の社会・経済開発を牽引するリーダーの育成と二国間の友好関係強化に

資するプロジェクトです。これまでベトナムから世界最大規模の 573 名が留学し、同国ニーズの拡大に応じ、成果への期待が益々高まっています。

開会の挨拶では、ベトナム側要人より、日本政府への JDS プログラムへの謝意を頂くとともに、JDS の卒業生の多くは日本で学んだ知識を活かし、ベトナムの経済発展に貢献していることから、より多くの有能な若手リーダーがこのプログラムに参加できるよう、関係省庁に協力を依頼されました。

また在越日本国大使館梅田大使より、「人生の結果は、『能力』、『熱意』、『考え方』の3つの要素を掛け合わせて決まる」と、ベトナムの将来を担う若手リーダーへの激励の言葉が送られました。

留学生はベトナムに求められている重点開発課題にそった研究テーマについて、全国 16 大学で、約2年間の留学生生活を送ります。

当事務所では、今後も JDS 事業を通じて、ベトナムの中枢を担う人材育成に貢献します。

適切な経済分析・予測に基づく 金融政策運営能力の向上を支援



「金融政策・経済分析予測能力向上プロジェクト」
第一回エグゼクティブ・ワークショップ

7月19日、ハノイ市にて、JICA とベトナム国家銀行（State Bank of Vietnam: SBV）が実施中の技術協力「金融政策・経済分析予測能力向上プロジェクト」（2017～2020）の第一回エグゼクティブ・ワークショップが開催されました。

SBV グエン・ティ・ホン副総裁の出席のもと、本プロジェクトの主な成果である①インフレ目標の設定手法、②マクロ経済予測モデル（DSGE モデル*¹）の構築、③SBV の経済分析・予測業務にかかる組織体制の改善について、プロジェクト開始以降の進捗報告を行いました。

SBV は金融政策当局として、物価の安定を図り社会経済の発展に貢献しています。2016 年の新政権発

足以降、インフレ率を新たな目安とする金融政策レジーム（インフレ目標政策）に移行していく方を模索*²、マクロ経済の安定性が高まるとして IMF 等の国際機関からも評価されています。一方、同政策への移行に向けて、十分な経済分析・予測に基づく金融政策運営が今以上に求められます。このため、JICA は、適切な経済分析・予測に基づく SBV の金融政策運営の能力向上を支援してきました。SBV ホン副総裁からは、今回提言された分析モデル及び分析結果の有用性は高く、プロジェクト終了に向けて、柔軟かつ実効的な金融政策を実行できるよう引き続き SBV 職員の能力強化を支援してほしいと、大きな期待が寄せられました。

（SBV ニュースリリース）

https://sbv.gov.vn/webcenter/portal/en/home/sbv/news/news_chitiet?leftWidth=20%25&showFooter=false&showHeader=false&dDocName=SBV399875&rightWidth=0%25¢erWidth=80%25&_afLoop=19703935818250095

*1. 動学確率一般均衡モデル（Dynamic Stochastic General Equilibrium: DSGE）のこと。近年、各国の中央銀行、国際機関等の政策機関において、旧来型のマクロ計量モデルに代わって、ミクロ的基礎付けに基づく同モデルを用いた経済予測や政策シミュレーションが導入されている。

*2. 従来、SBVは対ドル名目為替レートをアンカー（物価安定のための錨のような役割を担うもの）として金融政策を運営してきた。2016年、より柔軟な為替政策（管理変動相場制度）を採用したことで、SBVの政策運営の自由度が増しており、為替レートに替えてインフレ率をアンカーとする方策への移行が可能となった。

https://www.jica.go.jp/activities/project_list/knowledge/ku57pq00002jrnph-att/2016_027_vie.pdf

成長と競争力強化

ベトナムの持続的発展政策に関する政策研究機関との包括連携



写真前列左からベトナム社会科学院（VASS）グエン・クアン・トゥアン院長、JICA ベトナム事務所小中所長

7月24日、ハノイ市にて、JICA ベトナム事務所はベトナム社会科学院（Vietnam Academy of Social and Science: VASS）と、ベトナムの社会経済発展に関する包括協力覚書（Minutes of Cooperation: MOC）を締結しました。

VASSは、社会科学分野における政策研究・政策提言をリードするベトナム政府直轄の研究機関です。VASSとJICAは、これまでも社会経済開発戦略

（2011～2020）の草案策定や、ラムドン省に対する農業投資振興策の策定支援など、ベトナムの社会経済開発政策に関する協力を実施してきました。

こうした過去の協力成果を踏まえ、今回締結した包括協力覚書ではベトナムの社会経済発展について今後も長期的に協力していくことを再確認しました。今後当面は次の3分野での協力を予定しています。

1. 社会経済開発戦略（2021～2030）における少子高齢化対応としての社会保障政策の検討支援
2. 地方省社会経済開発計画（2021～2025）の策定支援（ベンチェ省及びハザン省）
3. アジア地域の新興国研究

また、これらに加え、JICAの研究機関であるJICA研究所とVASSとの一層の連携強化に向け、当事務所としても支援していく予定です。JICAは、これらのVASSとの協働を通じ、ベトナムの持続的発展に貢献していきます。

脆弱性への対応

国際看護師協会大会でプロジェクトの活動成果を発表



プロジェクトチームのメンバー

技術協力「新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト」（2016～2020）では、新卒看護師の能力の向上を図るため、全国の医療機関で使用する臨床研修プログラムを保健省とともに作成しています。今回、6月27日から7月1日までシンガポールで開

催された国際看護師協会（International Council of Nurses）*1大会に参加し、プロジェクト活動の成果に基づく研究のポスター発表を行いました。

研究では、看護師に求められる能力（コンピテンシー）に基づく臨床研修プログラムの作成過程やその効果についてとりまとめました。その成果として、新卒看護師のための研修プログラムの作成と試行を通じて、プログラムの対象者である新卒看護師だけでなく、運営に関わる看護管理者や研修指導担当者（プリセプター）の能力強化につながったことが分かりました。本研究のポスター発表には、多くの参加者が興味を持ち、世界各国の看護師と、新人看護師研修のあり方や課題等の意見交換を行うことができました。

会場では 1,600 以上のポスター発表のほか、SDGs の目標 3 の指標の一つであるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) *2 と看護師の社会的地位向上を目指す国際的キャンペーンである“ナーシング・ナウ”をテーマとしたシンポジウムも開催されました。大会で得られた最新の知見やネットワークは、

プロジェクト活動のみならず、ベトナム看護の発展につながるものと期待されます。

*1. 質の高い看護、保健政策、看護の知識の発展を保障するために活動を行う、世界各国の看護師協会から構成される組織。2年に1度開催される国際看護師協会大会は 100 カ国以上 5 千人を超える看護師が参加する世界最大規模の看護学会。

*2. すべての人が適切な予防、治療、リハビリなどの保健医療サービスを、必要な時に支払い可能な費用で受けられること。

脆弱性への対応

ランソン省での「世界反人身取引デー」 キャンペーンイベントに参加



ワークショップ・キャンペーンイベント

7月30日、ベトナム北部のランソン省にて、世界反人身取引デー (World Day against Trafficking in Persons) を記念したワークショップ・キャンペーンイベントが行われました。JICAは「被害者支援及びカウンセリングのための人身取引対策ホットライン運営強化プロジェクト」(2018~2021)を通じて、国連開発計画 (UNDP) や国際移住機関 (IOM) と共に協賛し、イベント用のポスター、ポロシャツ、帽子等の広報グッズをデザイン・提供しています。



ポロシャツを着て、キャンペーン進を実施

ベトナムにおける人身取引被害者の8割以上は、中国に連れ去られており(直近3年間で検挙された約1100件のうち、中国への人身取引は約900件)、ランソン省は中国と265km国境を接するため、こうした被害

のホットスポットとなっています。今回のイベントには、主催者であるベトナム女性連合や公安省、関連機関として労働疾病兵社会福祉省、国防省国境警備隊、外務省、先に述べた協賛3ドナーに加えてラオス大使館、イギリス大使館、その他国連機関も出席しており、重大な人権侵害たる人身取引への国際社会の関心の高さがうかがえました。

世界での人身取引被害の過半数はアジア地域の居住者あるいは出身者であり、特に東南アジアは性的搾取型人身取引の中心地だといわれます。今回は開催地の関係もあり、越中の二国間の観点からの発表が主でしたが、今後は中国側の参加呼び掛けや、パレルモ議定書*1やSDGsターゲット5.2*2といった国連主導の働きかけ、人身取引対策メコン地域閣僚イニシアティブ (COMMIT) *3といった東南アジア地域レベルの働きかけも議題に含めることで、より有益な議論ができると思われます。JICAはタイ、ミャンマー、ベトナムで人身取引に関する技術協力を実施してきたほか、ASEAN諸国を対象に同分野の課題別研修も毎年実施しており、越境課題への包括的取り組みとして国際的に広報する機会にもなると期待されます。

*1. パレルモ議定書：2000年に国連総会で採択された「国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約を補足する人(特に女性及び児童)の取引を防止し、抑止し及び処罰するための議定書」のこと。人身取引を防止し、これと戦うための協力を促進するため、国際的な法的枠組みを構築することを目的とした議定書であり、人身取引行為を犯罪とすることを締約国に義務付けた上で、人身取引の被害者の保護と送還、出入国管理に関する措置等について規定しています。

*2. SDGsターゲット5.2：人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性および女子に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。

*3. 人身取引対策メコン地域閣僚イニシアティブ (COMMIT)：2004年にメコン川流域6か国(中国、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、ベトナム)で発足した「人身取引対策に関するメコン地域閣僚イニシアティブ」のこと。同イニシアティブ下で、人身取引に係る二国間覚書締結やパレルモ議定書による人身取引の定義の使用が促進された。

※人身取引対策にご関心のある方は、プロジェクトニュースレターも是非ご覧ください。

(日)<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/047/newsletter/index.html>

(英)<https://www.jica.go.jp/project/english/vietnam/047/newsletter/index.html>

(越)<https://www.jica.go.jp/project/vietnamese/vietnam/047/newsletter/index.html>

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/047/outline/index.html>

JICA 海外協力隊、帰国ならびに中間報告会の開催



中間報告会を開催

7月2日、ハノイ市の JICA 事務所で、JICA 海外協力隊の帰国報告会と中間報告会が実施されました。本報告会では、隊員のほかに JICA 関係者も出席し、活動実績や課題が共有されました。

帰国報告会では、3職種3名の隊員が発表しました。ハノイ国家大学外国語大学に派遣された日本語教育隊員は、生徒に対し、実践的な日本語運用能力向上と、学生の主体性、思考力、協調性を養うことを目標とし指導にあたりました。クアンナム省のホイアン市遺跡保存管理事務所に派遣された建築隊員

は、旧市街の建物修復における工事監督や調査活動に携わり、修復記録の保存の提案や、安全面への配慮に関して指導を行いました。カントー市文化・スポーツ・観光局に派遣された空手道隊員は、基本と「形（かた）」を中心に指導を行い、担当した選手が南部大会準優勝、全国大会第三位という成績を収めることができました。また、この報告を通じて、活動結果だけでなく、課題に対してどのように工夫を凝らして対応してきたのか、そのプロセスも参加者に伝えられました。

中間報告会では、6職種8名（理学療法士、作業療法士、陶磁器、障害児・者支援、番組制作、輸出振興）の隊員が発表を行いました。これまでの活動の成果を踏まえた今後の活動計画を述べるとともに、聴講者とも意見を交わしつつ、お互いの活動の参考となる情報を得る機会となりました。

JICA 海外協力隊が指導した選手が大活躍



体操：カントーの選手とコーチ陣



柔道：ソクチャンの選手3名（女子個人戦の金メダリスト）とコーチ陣

6月28日～7月7日、ホーチミン市でベトナム全国ユース柔道大会が開催され、ソクチャン省スポーツ競技訓練センターからは、柔道の JICA 海外協力隊が指導した柔道のユース選手15名が参加しました。この大会では25省から616名の選手が参加、ソクチャン省の選手は、男子団体優勝（3人制）に加え、個人戦では6個の金メダル、2個の銀メダル、1個の銅メダルと、計12個のメダルを獲得できました。

また、7月26～27日には、ベトナム全国体操大会がハノイ市で開催され、ベトナム体操連盟カントー支部からは、体操の JICA 海外協力隊が指導する選手12名が参加しました。5省からベトナム体操連盟所属の強化選手が参加、カントー市の選手は、女子総合では選手コース、育成コースどちらにおいても、個人総合優勝と2位、種目別では男子・女子、選手コース、育成コースを合わせて全部で8個の金メダル、5個の銀メダル、10個の銅メダルを獲得することができました。

この2つの全国大会では、指導してきた選手が優秀な成績を収め、メコンデルタでコーチとして指導している JICA 海外協力隊の存在を関係者に印象付ける機会にもなりました。短い期間で急成長してきた選手の将来が期待されています。

その他

メコンデルタの雄、カントー市！



市中心部を流れるメコン川最大の支流ハウザン

ベトナム日本商工会議所（JCCI）ビジネス情報サービス委員会によるカントー市視察に同行する機会を得ました。5つある政府直轄市のひとつで、メコンデルタの中心都市カントー。高い成長を継続しており（昨年の成長率 7.55%）、主要産業は農業（主力のコメに加え、果物や野菜も）と水産業ですが、これを生かした食品加工に繊維や医薬品等を加えた製造業、それから IT 等についても投資が来るようになってきた。また、「道路や空港といったインフラや、生活面でも VINMEC 病院が来年オープン予定であ

るなど、全般的に投資環境が整備されつつある」とのことです。ちなみに人民委員会との対話では、「人が穏やかなのも魅力！」という貴重なメッセージもいただきました。カントー大学からは、南ベトナム時代から日本の ODA や本邦大学からの支援も得て、ベトナムが不足している高度人材をメコンデルタ地域に供給しているとの頼もしい話もありました。

百聞は一見に如かず、カントー市のビジネス・ポテンシャルを感じる事ができました。とは言え、ハノイ市、ホーチミン市、ハイフォン市、ダナン市及びその近郊省と比較すると後れを取っているし、知名度もまだまだ低いので、カントー市関係者による強力なビジネス誘致活動が不可欠です。ちなみに PCI (Provincial Competitiveness Index) 11 位、PAPI (Provincial Governance and Public Administration Performance Index) 8 位といずれも高位です。民間企業の皆さん、もしかしたら「穴場」かもしれませんよ！

援助調整アドバイザー（計画投資省） 大西 靖典

その他

カントー橋慰霊碑への献花



55 名のご尊名が刻まれた慰霊碑

2007 年 9 月にカントー橋建設事業*の工事現場で発生した仮設橋脚破壊による橋桁の崩落事故で、工事に携わっていた 55 名の尊い生命が犠牲になりました。カントー橋のビンロン省側の橋の袂にある寺院

には、これら犠牲者に対する慰霊碑が建立されています。この度（2019 年 7 月 11 日）、カントー市を訪問した JICA 事務所長他は、昨年 4 月に続き同慰霊碑を訪問し献花を行いました。当日、慰霊碑にはすでに花等が供えられており、日頃より関係者による献花が行われていることがうかがわれました。今後カントー市出張に際しては、同地を往訪し、犠牲者の方々の慰霊とともに当時けがをされた方々の回復、そしてご家族を含めた関係者皆様に思いを馳せ、また、JICA 関係者が工事の安全に対する意識を常に持ち続けるための自省の機会とする所存です。

*カントー橋建設計画：円借款供与限度額 294.7 億円、2010 年 4 月 24 日完成

その他

世界の野球グローブ支援プロジェクト IN ベトナム

7 月 27 日にホーチミン市内にあるフック・ロン・スタジアムで「世界の野球グローブ支援プロジェクト IN ベトナム」の贈呈式が行われました。

このイベントは同プロジェクトを通じて日本で寄

贈されたグローブ、バット、硬式ボール、軟式ボールを地元野球チームに贈呈するものです。JICA は、途上国における野球の普及・振興を図るとともに、野球を通じた青少年の健全な育成を目的として 2016

年8月に読売新聞社と「世界の野球グローブ支援プロジェクト」の覚書を締結しています。

当日は晴天にも恵まれ小学生や野球チームメンバーなど100名近くの参加があり、野球用具が贈呈されるとともに始球式も行われました。野球チームは中学生クラスの選手で構成され、日本人の駐在員チームと交流（試合や指導）を行っており、次第にレベルも上がっているということでした。

同プロジェクト運営委員会は、野球用具の贈呈は来年以降も計画されており、ベトナムでは野球はまだ知られておらず普及していない中、このような取

り組みを通じて次第に野球人口が増え、さらにはレベルも上がり将来的には国際大会での活躍も期待したいと述べました。



世界の野球グローブ支援プロジェクト
(贈呈式に JICA ベトナム事務所ホーチミン出張所井崎首席も参加)

Voice of Expert 専門家便り

環境モニタリングデータの整備・充実を望む



大気汚染と健康に関する第1回会合（2017年11月：筆者も共同議長を務めた）

2017年10月、地元紙に「ハノイで70箇所大気常時監視計画」との文字が躍った。2016年9月に着任して以来、各種環境モニタリングデータの入手に苦慮していた私にとって願ってもない吉報だった。

それまで、ベトナムでは大気環境モニタリングデータが公表されておらず、かろうじて入手できる情報と言え、毎年発行される National Environmental Status Report（ベトナム版環境白書。ただし、毎年取り上げるテーマが異なり、大気環境について触れられるのは3年に1回程度）か、米国大使館が自主的に設置公表しているデータなど情報は限られたものしかなかった。環境政策の企画立案においては、モニタリングデータにより現状を把握し、目標とする値（環境基準）とのギャップを如何にして埋めるのが基本となるが、モニタリングデータがないままでの政策立案はさながら明かりがなく手探りで進む洞窟探検のようなものであり、政策を考える立場からすると、非常に厳しい環境である。

記事によると「ハノイ市環境局が10箇所モニタリングを実施、将来的には70箇所モニタリングする計画」とあり、実際にハノイ市環境局のウェブサイト*1を確認したところ、市内10箇所（近々11



山崎 寿之さん
環境政策アドバイザー

箇所）に増える予定）におけるモニタリング結果（PM2.5, PM10, SO2, NO2, CO について大気環境指標の一つである AQI を用いて表示）を過去およそ5日分の変動を1時間単位で確認できた。しかし、まだモニタリング箇所数は少ないと言わざるを得ず、データについても、市民が現状を確認するにはいいが、行政官・研究者が利用しやすいデータ形式とはいえない。

日本におけるモニタリングデータのウェブサイト上での公表については、一例をあげると国立環境研究所のウェブサイト*2)が挙げられる。ここでは最大1970年以降のモニタリングデータを確認することができる。また、日本では2017年度末時点で全国1,873局（一般環境大気測定局1,464局、自動車排出ガス測定局409局）で大気環境の常時監視を実施しており、毎年結果を公表している。常時監視には設備本体のみならず維持管理コストもかかるため、ベトナムにはここまでの数のモニタリング実施は求めないが、現状を的確に把握して効果的・効率的な施策を講じるためにも、設置後の維持管理及び管理コストにも配慮しつつ持続可能な範囲でモニタリン

グサイトの充実を図り、行政官・研究者がアクセスしやすい形でのデータの整備・公表が必要であると考える。



市内にあふれるバイクの状況

現在、街では多くのバイクのドライバーがマスクを着用して運転している様子が見られるほか、ハノイで大気汚染と健康に関する会議が開催されるなど、大気汚染による健康影響についても住民の意識が高まっている。

大気環境保全に対する機運の高まりとともに、モニタリングデータの充実・整備・公表及び各種対策がより一層進められ、大気環境が改善されることを期待する。

- * 1. ハノイ市環境局のウェブサイト
http://portal.hanoi.gov.vn/quantrac_khongkhi1
- * 2. 国立環境研究所のウェブサイト
http://www.nies.go.jp/igreen/td_disp.html

JICAベトナム事務所では、本月報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、 vt_oso_rep@jica.go.jpまでお送り下さい。

Website <https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> (日・越・英)

Facebook <https://www.facebook.com/jicavietnam> (越)

発行：JICAベトナム事務所 広報班